

ふくしま仕事人

大学構内での放置自転車のリサイクル事業を大学と提携して進めています。昨年からは東北大学で実施し、今年は359台の放置自転車を回収しました。4月に、修理可能だった100台を1台3000円で新入生に販売したところ、たちまち売となりました。

回収から再販売までには大変な手間がかかりました。また、所有権に関する問題や廃棄物処分の法的な問題もあります。トラブルが生じないように、当社がすべてをサポートするシステムを整えたところに独自性があります。

当社はバイクの買い取りが主な業務です。バイクの場合、放置されたものは、車検証がなく再販売できません。そこで、大学生が卒業前に手放すバイクの引き取りシステムを大学側に提案できなかったか検討しました。

バイクオフコーポレーション(いわき市)

稲本 勝美社長(41)



大学と連携 放置自転車回収

ところが、大学側にとっては、むしろ放置自転車対策に頭を痛めているという実情があり、そのリサイクルシステムの事業化を立案しました。

東北大学での取り組みは、放置自転車が長期間雨ざらしになって、車体の傷みも激しく、再生率は予想を大幅に下回りました。そのこともあって採算はとれていません。

しかし、大学とのリサイクル業務に関する覚書締結、撤去の告知、警察への盗難照会、修理、再生品販売などの実際の作業、さらに大学への収支報告など、東北大学との一連の取り組みが、他に例のないビジネスモデルになると思っています。

今年は県内や岩手、山形などの大学との提携もできる見通しです。放置自転車の問題は、大学に限らず社会問題化しています。多額の予算で対策に取り組んでいる自治体もあります。循環型社会を目指し、使える物を捨てるのはもったいないという時流でもあります。

大学や自治体、あるいは自転車レンタルの需要のある観光地、駅に関連した団体などと連携しながら、当社のリサイクル事業を広く展開してゆきたいと考えています。

(聞き手・丸山賢治)

2006年5月3日 朝日新聞掲載記事